

<須崎市 様>

上映日：2026年01月11日（日） 場所：須崎市立市民文化会館（高知県須崎市）



映画だからこそ、想定を超える参加と新たな世代への広がりにつながりました。

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

サポーター養成講座や啓発の機会へ若年層の参加が少なく、新しい取り組みを考えていました。

映画上映を行なったことがなく、高知市が前の年に開催していて観客も多かったのも、新しい認知症観の普及啓発のために国の補助金を活用し実施しました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

須崎市と須崎市地域包括支援センターです。

●後援などをどのように依頼し、どういった協力を得られましたか？

須崎市の関係機関に広報等の協力を仰ぎ、須崎市全体に周知しました。また就労継続支援B型事業所に会場で物販を行ってもらいました。

●地域の方や関係者にどのように告知をしましたか？

広報折込、市内の小中学校にお手紙配布、各公民館やあったか（地域サロン）に配布しました。

●上映会当日の様子や反響を教えてください。

70～80代の参加者が多く、普段参加の少ない50代の参加もみられました。申込も想定人数を超え、多くの方にご参加いただきました。

参加者からは「良かった」「また上映してほしい」「色々な立場の方の思いが見られてわかりやすかった」など好評の声が寄せられました。また、「こんな優しい地域になれば認知症になっても安心する」「他人ごとではないことに気が付いた」といった感想もあり、認知症を身近な問題として考えるきっかけとなったようです。

●今回の活動を通じて、地域作りや今後の活動に繋がりましたか。

認知症サポーター養成講座に繋がり、それを受講した住民の皆さんが中心になり認知症予防教室の開催に繋がりました。また認知症カフェをやりたいと言う住民と繋がるきっかけになりました。

●上映会を開催してみて、いかがでしたか？

映画という形式は気軽に誘いやすく、参加しやすい印象がありました。はじめての試みでしたが、参加者も多く評判も良かったです。認知症に対する否定的な意見はまだ多いと感じますが、映画を通して市民一人ひとりが地域の支援者となるきっかけや、新しい認知症観を広げる普及啓発につながったと感じています。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

映画上映後住民の皆さんの素直な声が聞けて良かったです。

ご担当者：市川恵理さん